

世界遺産登録推進国際フォーラム2014の開催結果について

平成26年11月5日

「立山・黒部」の世界遺産登録推進に向けて、立山カルデラの防災遺産（歴史的砂防施設群）の国際的評価の検証・確立、文化財指定の推進に取り組んでいます。

今年、これまでの成果を幅広い県民の皆さんに紹介するとともに、立山カルデラの防災遺産の価値について知ってもらうために、世界遺産登録推進国際フォーラム2014「立山砂防と世界の防災遺産」を開催しました。パネルディスカッションでは活発な意見が出され、国内外の専門家から取組み等に対する有意義な助言をいただきました。



講演「世界遺産登録の現状」



パネルディスカッション
「立山砂防と世界の防災遺産」

- 1 開催日 平成26年11月3日（月）14:00～17:30
- 2 場所 インテックビルタワー111 スカイホール
- 3 参加者 約380名
- 4 主催 富山県世界遺産登録推進事業実行委員会
- 5 内容
 - ① 基調講演 「世界遺産登録の現状」
講師 アルフレッド・ルイス・コンティ氏（イコモス副会長）
 - ② 映像上映 「立山砂防～世界遺産登録を目指して～」
 - ③ ユースプログラム発表「立山砂防の世界文化遺産登録に向けて」
 - ④ 講演「立山砂防と世界の防災遺産」石井隆一（富山県知事）
 - ⑤ パネルディスカッション
コーディネーター 西村 幸夫（日本イコモス国内委員会委員長）
パネリスト アルフレッド・ルイス・コンティ（イコモス副会長）
アンドレアス・ゲッツ（前スイス環境庁次官）
五十畑 弘（日本大学教授）
稲葉 信子（筑波大学大学院教授）
岡田 保良（国士舘大学大学院教授）
岡本 正男（一般社団法人 全国治水砂防協会理事長）
石井 隆一

◆基調講演

「世界遺産登録の現状」 イコモス副会長 アルフレッド・ルイス・コンティ氏

人間の創造的才能を表す傑作

現在、世界遺産条約の締結国は 191 カ国で、1,007 件（文化遺産 779 件、自然遺産 197 件、複合遺産 31 件）の世界遺産が登録されています。

土木遺産のミディ運河（フランス）は登録基準の“人間の創造的才能を表す傑作”に位置づけられ、デザインへの配慮や周辺景観とうまく連動することで技術的偉業としてだけでなく、芸術作品までに昇華されており、これは立山砂防にも当てはまり、世界遺産として顕著な普遍的価値を有していると思います。

◆ユースプログラム発表

発表者：8月21日～24日に開催された「世界遺産人材育成プロジェクト・ユースプログラム」に参加した富山県立大学の大石 直人さん、同志社女子大学の岡崎晴日さん、富山大学大学院 岡田卓也さん

認知度アップにアニメ映画を

県民を中心に立山砂防の認知度をあげる取組みとして、小学生の立山登山にあわせて立山砂防の歴史や重要性を学ぶ機会を設けることや、富山県出身の映画監督によるアニメ映画の制作を提案します。プログラムで体験したことを多くの人に伝え、登録に向けた取組みに協力したいと思います。

◆講演

「立山砂防と世界の防災遺産」富山県知事 石井 隆一

世界で唯一のコンセプト

今年度の比較分析調査により、世界に「防災」をコンセプトにした世界文化遺産はないことを確認しました。防災遺産の考え方はこれまでの遺産に見られない独自のコンセプトです。立山砂防は「過酷な自然の脅威に対する人類の英知による対応」、「人間の創造的才能を表す傑作といえる技術の極致」、「東南アジア、中南米などの砂防施設への技術的影響」などの類例のない顕著な普遍的価値があると考えます。

◆パネルディスカッション

コーディネーター

西村 幸夫氏（日本イコモス国内委員会委員長）

パネリスト

アルフレッド・ルイス・コンティ氏（イコモス副委員長）

アンドレアス・ゲッツ氏（前スイス環境庁次官）

五十畑 弘氏（日本大学教授）

稲葉 信子氏（筑波大学大学院教授）

岡田 保良氏（国士舘大学イラク古代文化研究所教授）

岡本 正男氏（一般社団法人全国治水砂防協会理事長）

石井 知事

世界遺産に登録されるべき

ゲッツ氏 立山砂防は最も厳しい条件下における自然災害への取組みの成功例の象徴であり、自然と社会の共生が確保されています。世界中の多くの山岳地帯にとっての旗艦プロジェクトであり、世界遺産に登録されるべきと考えています。

コンティ氏 私も登録リストや暫定リストの記載物件を確認しましたが、立山砂防に類似したものは見当たりませんでした。今後は暫定リストに載っていない資産まで対象を広げて確認する必要があります。

岡田氏 人間が生活の場を作るために最も大事なのが水です。命の水と人間がどのように付き合い、どのようにコントロールして生活の糧としてきたか、それは立山砂防からも言えることです。

日本の近代砂防の原点

岡本氏 立山を見ずして日本の砂防を語るなどと言われており、砂防の全てが結集しています。砂防学会で代表例をアンケートすれば立山砂防が間違いなく選ばれる程、誰もが知っています。海外で砂防を紹介する際には真っ先に立山を紹介します。砂防を理解しやすいからです。立山砂防は災害の多い日本で発展した総合的な防災技術の一つであり、近代砂防の原点です。土砂災害が頻発する中、立山砂防を世界に発信することには大きな意義があります。

人間の創造的才能を表す傑作

コンティ氏 立山砂防は人間の創造的才能を表す傑作であると思います。今後は推薦の範囲を検討することが大事です。

ゲッツ氏 世界に情報を伝える大使が必要です。私も良い立山砂防の大使になれると思います。

五十畑氏 現在も稼働している立山砂防を土木遺産として活用していくため、保存管理計画のマニュアル化など機能を継続する取組みが大切です。

稲葉氏 防災遺産として最初の世界遺産となれば、パイオニアとしての責任が伴うので、学術的な枠組みと遺産保護の枠組みを提案していくことがとても大事だと思います。

岡本氏 立山砂防をアピールする点として、1 つ目は世界最高難度の砂防対策をやってきたこと。2 つ目は白岩堰堤で代表される直接砂防と本宮堰堤で代表される間接砂防を合理的に組み合わせて実行してきたこと。3 つ目には砂防の目的は流域の土砂管理であり、その結果、自然の復元を図ってきたことです。

知 事 構成資産と登録の範囲の検討を進め、学術論文として発表したい。日本イコモス理事会とフォーラムの開催や一般向けに読みやすい本の出版など、世界遺産登録に向けてスピード感をもって取り組んでいきたいと思います。

